

実体経済の動向

◇生産、出荷は停滞傾向

(生産—10月は大幅な減少)

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は、9月に+2.4%と増加したあと10月(速報)は-2.4%の大幅な減少を示し、原計数の前年同月比でも+3.3%(9月+5.2%)と落ち込んだ。また3ヵ月移動平均値の前月比でも、7月+2.1%、8月+0.8%、9月-0.2%と減少に転じている。

特殊分類別にみると、設備投資関連の一般資本財(-9.0%)が圧延機械、ポンプ、クレーンを中心に、また資本財送機械がトラックを中心に著減したほか、生産財も鉄鋼、繊維、非鉄等市況商品の減産を映じて-1.1%と減少を示した。一方、建設資材(+2.3%)は、橋りょう、アルミサッシを中心に、耐久消費財(+1.0%)も乗用車、腕時計を主体に増加した。

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年		46年			46年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	
鉱工業	220.2	224.5	221.8	230.0	227.8	233.2	—	
前期(月)比	-0.6	2.0	-1.2	3.7	-0.6	2.4	-2.4	
前年同期(月)比	10.8	8.7	2.9	4.1	3.7	5.2	3.3	
投資財	1.6	4.5	-4.3	3.0	-1.4	4.5	-4.9	
資本財	2.2	5.5	-5.6	3.1	-1.3	6.0	-7.7	
同(輸送機械を除く)	2.7	6.1	-8.8	1.1	0.7	3.7	-9.0	
輸送機械	2.3	4.4	3.0	7.5	-4.6	11.6	—	
建設資材	-0.1	1.3	-0.4	2.7	-0.8	-1.3	2.3	
消費財	-2.9	1.2	2.3	3.3	-1.5	2.0	0	
耐久消費財	-3.6	0.8	1.2	8.1	-1.6	1.7	1.0	
非耐久消費財	-2.2	2.1	2.4	-0.3	-1.1	1.7	-1.2	
生産財	-0.4	0	-0.8	4.6	1.2	0.1	-1.1	

(注) 1. 通産省調べ、46年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

(出荷—期明け事情もあり大幅落込み)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、9月に+5.2%と著増のあと10月(速報)は-4.9%と月間

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	45年		46年			46年		
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月	
鉱工業	209.6	214.5	215.5	220.8	214.8	226.0	—	
前期(月)比	-0.6	2.3	0.5	2.5	-3.0	5.2	-4.9	
前年同期(月)比	8.2	6.0	4.9	4.7	3.0	6.5	2.4	
投資財	2.3	2.1	-0.6	2.0	-1.6	12.8	-9.2	
資本財	3.2	4.2	-1.0	1.9	-1.8	17.4	-12.6	
同(輸送機械を除く)	-0.3	2.8	-8.2	4.0	2.4	6.5	-7.5	
輸送機械	9.3	2.6	13.4	-1.9	-8.1	37.6	—	
建設資材	0.2	-0.3	0.9	2.3	-1.4	-0.5	1.6	
消費財	-3.4	4.1	3.3	1.6	-7.3	1.2	-2.6	
耐久消費財	-3.2	2.0	7.8	5.0	-9.6	1.1	-3.1	
非耐久消費財	-3.2	4.8	0.5	0.2	-4.6	1.1	-1.1	
生産財	-0.6	0.4	-0.2	3.0	0.1	1.2	-3.5	

(注) 1. 通産省調べ、46年10月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

では既往最大の落込みとなった(従来は33年5月の-3.4%が最大)。これには、船舶の落込みがかなり響いており、船舶を除くと-3.5%と減少幅はやや小さくなる。しかし3ヵ月移動平均値(船舶を除く)の前月比でも、7月+1.0%、8月+0.7%のあと、9月は-1.1%となり減勢傾向がうかがわれる。なお、原計数の前年同月比も+2.4%と9月(+6.5%)に比べかなり低下した。

特殊分類別にみると、建設資材が3ヵ月ぶりに増加(+1.6%)したのを除き、各財とも軒並みに減少したが、ことに船舶、大型トラックを中心とする資本財輸送機械と金属加工機械、風水力機械、農業用機械を中心とする一般資本財(-7.5%、9月+6.5%)の大幅反落が目だっている。また耐久消費財(-3.1%)は、軽乗用車、カラーテレビ、エアコンディショナを主体に、生産財(-3.5%)は鉄鋼、繊維、非鉄、化学等主要市況産業での減少を映じて、いずれも反落している。

(製品在庫—かなりの増加)

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は、9月微減(-0.3%)のあと、10月(速報)は+1.5%とかなりの増加を示した。3ヵ月移動平均値の前月比でも7月-0.1%、8月横ばいのあと9月は

鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	45年				46年(期別)				46年(月別)		
	12月	3月	6月	9月	8月	9月	10月				
鉄工業	233.1	238.1	238.7	238.8	239.6	238.8	—				
指 数	10.2	2.1	0.3	0	-1.7	-0.3	1.5				
前期(月)末比	25.7	27.6	19.3	12.4	13.8	12.4	8.7				
前年同期(月)末比	108.4	107.0	109.4	105.7	111.5	105.7	112.8				
製品在庫率											
指 数	15.3	9.3	8.7	-2.7	0	-2.7	1.1				
投資財	22.2	11.8	13.9	-6.1	0.2	-5.5	1.2				
資本財	20.6	10.8	12.0	-2.5	-0.3	-4.7	1.6				
同(輸送機械を除く)	26.4	15.6	25.0	-21.8	2.0	-8.1	—				
輸送機械	5.4	5.9	1.3	3.0	0.3	1.9	1.2				
建設資材	9.6	-3.2	-3.4	-3.7	2.1	-0.9	1.8				
消費財	0.8	0.1	-10.1	-13.2	-2.0	-2.9	4.3				
耐久消費財	15.8	-3.5	4.2	4.0	4.9	0.7	-0.7				
非耐久消費財	7.6	5.7	-1.8	5.7	2.7	1.5	1.7				
生産財											

(注) 1. 通産省調べ、46年10月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

+1.0%の増加となっている。もっとも、原計数の前年同月比では昨年10月に大幅な在庫増がみられたために+8.7%と前月(+12.4%)を下回った。

特殊分類別では、乗用車、小型トラックを中心とした資本財輸送機械および非耐久消費財(-0.7%)が小幅減少を示したものの、その他の財は耐久消費財(+4.3%)がカラーテレビ、電気冷蔵庫を中心に著増したのをはじめ、生産財(+1.7%、鉄鋼、非鉄金属、繊維等)、一般資本財(+1.6%、金属加工機械、農業機械等)ともそれぞれかなりの増加となった。

以上の動きから、10月の生産者製品在庫率指数(速報)は112.8と前月(105.7)比+7.1ポイントの大幅上昇となり、これまでの最高である本年5月(112.9)並みの高水準となった。

(原材料在庫——10月は微減)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は、8月減少(-2.2%)、9月ほぼ横ばい(+0.1%)のあと、10月は-0.6%の微減となり、原材料段階での在庫調整の進捗がうかがわれる。

特殊分類別にみると、国産分(-0.2%)が3か

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)			46年(月別)		
	3月	6月	9月	8月	9月	10月
在庫指数	184.9	190.3	188.7	188.6	188.7	187.5
前期(月)末比	6.9	2.9	-0.8	-2.2	0.1	-0.6
国産分	6.5	-0.1	0.1	-1.4	-0.1	-0.2
素原材料	22.2	4.4	-3.8	-1.8	-2.3	-1.0
製品原材料	1.8	-1.8	0.8	-1.5	0.5	-0.1
輸入分	8.5	8.7	-2.0	-3.8	0.4	-1.9
素原材料	9.2	9.9	-1.7	-3.9	0.8	-2.0
在庫率指数	91.1	95.1	91.9	92.0	91.9	93.7
国産分	86.1	87.4	85.0	85.3	85.0	87.0
素原材料	116.5	123.2	118.0	120.2	118.0	118.4
製品原材料	81.8	81.7	79.6	79.7	79.6	81.8
輸入分	105.5	114.7	112.1	110.5	112.1	112.2
素原材料	105.4	115.7	113.1	111.4	113.1	112.6

(注) 通産省調べ、46年10月は速報。

月連続の減少を示し、輸入分も9月微増(+0.4%)のあと、10月は-1.9%と、かなりの減少を示した。業種別では、鉄鋼、繊維等で微増したものの、非鉄、石油、紙・パルプ等では、生産調整による輸入抑制や中間生産物減産を映じて大幅な在庫減となった。

原材料在庫率指数は、本年6月(95.1)をピークに下降し続けてきたが、10月は消費が5か月ぶりに減少(-2.5%)したため、93.7と前月(91.9)に比べ1.8ポイント上昇した。内容別にみると、国産分の上昇(85.0→87.0)が目立つ反面、輸入分は、ほぼ横ばい(112.1→112.2)であった。

(販売業者在庫——9月は著増)

販売業者在庫(季節調整済み、前月比)は、3か

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)			46年(月別)		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
総合指数	187.4	188.4	192.0	186.1	182.9	192.0
前期(月)末比	1.7	0.5	1.9	-1.2	-1.7	5.0
素原材料	3.8	1.2	0	6.5	-3.7	-6.1
製品	1.9	0.5	2.1	-1.7	-1.7	-5.5

(注) 通産省調べ、46年9月は速報。

月連続して減少のあと、9月は+5.0%の著増となった。自動車(+11.8%)、灯油(+15.6%)の増加は需要期を控えた在庫増しを映じたものであるが、鋼材(+1.4%)、非鉄(+5.7%)等の在庫増加には、二次問屋や、末端ユーザーの買控えが響いているようである。

(設備投資—鎮静傾向強まる)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、9月に+6.5%とかなりの増加を示したあと、10月(速報)は-7.5%の大幅減少となった(原計数の前年同月比では9月+4.5%、10月+2.6%)。品目別にみると、金属加工機械(工作機械、圧延機械)、風水力機械(ポンプ、圧縮送風機)、大型重電機器(非標準変圧器、非標準モーター)等の減少幅が大きい。

機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、9月微増(+1.0%)のあと、10月は-32.1%と大幅に減少した。3ヵ月移動平均値の前月比でも、7月+7.5%、8月-2.1%、9月-15.3%と減勢を示している。業種別にみると、製造業が9月増加(+19.5%)の反動もあって、鉄鋼(-48.5%)、化学(-55.4%)、機械(-45.1%)等を中心に-42.7%と大幅減少を示し、非製造業も電力の落込み(-53.2%)を主因に-13.6%と8月以降3ヵ月連続の減少となった。なお、9月の機械受注残

高(船舶を除く、季節調整済み)は、前月比+1.7%と5ヵ月連続の増加となった(原計数の前年同月比+12.3%、8月+12.0%)。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、前月比)は、9月に期末要因もあって著増(+28.2%)のあと、10月(速報)は-29.4%と大幅に減少した(3ヵ月移動平均の前月比では、7月+5.1%、8月+12.6%、9月+1.2%)。なお、官公庁工事は9月著増(+27.1%)の反動もあって10月は-33.1%と大幅な減少を示した。

◇商品市況は下げ渋り模様ながらも弱基調

11月にはいつからの商品市況をみると、鉄鋼が棒鋼を除き小戻したほか、洋紙、セメント等も強含みに推移したが、反面、銅、亜鉛、合成樹脂等が軟化し、また、合繊、基礎薬品類、段ボール原紙、木材等も依然弱含み商状を続けるなど軟弱地合いのものも少なくなく、総体として下げ渋り模様ながら、なお弱基調を改めなかった。

これは、在庫調整の進展、官公需の増加など若干強材料も出てきているものの、民間実需に回復のきざしがみられない(条鋼類、基礎薬品、C重油、非鉄、木材等)うえ、先行き輸出の鈍化が予想される(合繊、合成樹脂等)ことから、ユーザー、商社等の買い意欲が沈静し、需給地合いが引きゆるみ状態を続けたためである。なお、市況が若干強含みとなった商品についても、仕手筋のおもわく(砂糖)、メーカーの市況対策奏功(洋紙、セメント、塩ビ)、不況カルテル具体化の動きをはやした市場人気(鋼板類)などによる面も少なくないようで、需給の基調的改善を映じたものとはいいがたいようである。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……棒鋼、亜鉛鉄板がおおむね保合いに推移したものの、くず鉄が久方ぶりに小反発し、また鋼板類、形鋼も、高炉大手6社による「粗鋼段階での不況カルテル」の申請をはやして小戻し歩調を続けるなど、総じてみれば、月後半になってやや値腰は引き締まってきた。もっとも、引合い状況を見ると、輸出成約の回復、官公需の増加(形

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	46年			46年		
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月	10月
民需	2,718	2,307	2,734	3,039	2,539	1,890
	(+12.3)	(-15.1)	(+18.5)	(+15.8)	(-16.4)	(-25.6)
同(船舶を除く)	2,356	1,830	2,211	2,082	2,104	1,428
	(+21.8)	(-22.3)	(+20.8)	(-14.9)	(+1.0)	(-32.1)
製造業	1,110	1,105	966	883	1,055	604
	(+2.2)	(-0.5)	(-12.6)	(-8.1)	(+19.5)	(-42.7)
非製造業	1,578	1,203	1,747	2,154	1,427	1,363
	(+13.7)	(-23.8)	(+45.3)	(+29.7)	(-33.7)	(+4.4)
同(船舶を除く)	1,267	750	1,233	1,190	1,021	883
	(+46.0)	(-40.8)	(+64.5)	(-20.1)	(-14.1)	(-13.6)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

鋼)などやや明るい材料もみられたものの、ユーザーは依然として当用買いに徹しており、民間実需は低調が続いている。

繊維……綿糸が後半強保合いとなったほか、スフ糸、人絹糸も総じて保合いに推移したものの、一方、合繊糸(ナイロン、アクリル、ポリエステル)は弱含みを続けた。合繊糸については、対米繊維輸出に関する政府間協定によって輸出が先行き大幅に減少するものと見込まれるところから、仮需は極度に減退しており、原糸メーカー筋が10月から開始ないし強化した減産もほとんど市況には効果が現われていない。

非鉄……すずは生産国の買いさきえによる海外相場の反騰などにより下げ一服となったが、銅、鉛、亜鉛は、海外相場の下落に加え、実需が依然として低迷を続けており、山元における過剰在庫の累増(銅)、国内建値の引下げ(亜鉛)などから、再び反落し一段安となった。

石油……灯油は、暖房用など季節需要が盛り上

がりをやや欠いたこともあって弱含みに推移し、またC重油も鉄鋼などの大口需要家の引取りが一段と鈍化している模様で、軟弱地合いを続けた。

セメント……民需は依然動意に乏しいが、官公需の漸増から出荷はやや持直しをみせており、価格も中小ユーザー向けについて建値引上げが徐々に浸透するなど、強含みを示した。

木材……小売筋などが小口当用買いの態度に徹していることもあって、荷動きは依然低調を続けており、内地材、外材とも総じて弱含み商状を続けた。

化学品……合成樹脂では、荷動きの停滞から、塩ビの建値引上げが難航しているほか、これまで比較的底堅い動きを示してきたポリエチレンも弱含み気配となった。また、基礎薬品については、主要需要先がいずれも減産を継続ないし強化する方向にあるため荷動き好転の見込みがまったくつかず、依然として軟弱商状を続けた。

紙……洋紙は、メーカーの生産抑制(上質紙、

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	前年度比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)								
		44年度 平均	45年度 平均	46年			46年10月			46年11月		
				8月	9月	10月	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
総平均	100.0	+ 3.2	+ 2.4	+ 0.2	- 0.3	- 0.5	- 0.3	- 0.1	- 0.1	保合	- 0.1	
食料品	15.7	+ 4.2	+ 2.4	+ 1.1	+ 0.6	- 0.6	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	+ 0.2	- 0.2	
繊維品	10.7	+ 0.4	+ 5.2	- 0.5	- 1.3	- 0.6	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	- 0.2	+ 0.3	
鉄鋼	9.7	+ 11.3	+ 2.2	+ 0.5	- 1.8	- 2.6	- 1.3	- 0.7	- 0.4	- 0.2	+ 0.2	
非鉄金属	4.4	+ 18.2	+ 7.6	- 1.5	- 3.4	- 2.8	- 1.5	保合	- 0.3	- 0.1	- 0.3	
金属製品	3.8	+ 3.0	+ 4.2	保合	- 0.1	- 0.4	- 0.3	保合	保合	- 0.2	保合	
機械器具	22.1	+ 0.1	+ 1.5	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	保合	- 0.1	保合	+ 0.1	保合	
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.5	+ 4.5	保合	- 0.1	- 0.2	+ 0.5	- 0.1	- 0.6	- 0.4	- 0.4	
木材・同製品	6.2	+ 3.0	+ 3.4	+ 1.5	+ 1.4	- 0.1	- 0.3	- 0.1	+ 0.1	- 0.1	- 0.4	
窯業製品	3.0	+ 2.3	+ 4.8	- 0.1	- 0.2	- 0.1	+ 0.1	- 0.2	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.1	
化学製品	7.6	- 0.4	+ 0.5	- 0.2	保合	- 0.1	+ 0.1	- 0.1	保合	+ 0.1	保合	
紙・パルプ・同製品	3.4	+ 3.7	+ 6.7	+ 0.1	+ 0.4	+ 0.3	+ 0.2	- 0.1	+ 0.1	保合	- 0.2	
雑品目	7.9	+ 2.7	+ 3.4	- 0.1	- 0.2	- 0.1	保合	- 0.1	- 0.1	保合	保合	
工業製品	82.0	+ 3.0	+ 3.0	+ 0.1	- 0.3	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.1	保合	保合	
うち大企業性	59.6	+ 2.3	+ 1.5	保合	- 0.4	- 0.6						
中小企業性	21.0	+ 4.4	+ 6.5	+ 0.4	+ 0.2	- 0.1						
非工業製品	18.0	+ 4.1	- 0.1	+ 0.4	- 0.2	- 1.1	- 0.4	- 0.2	- 0.2	+ 0.2	- 0.5	

(注) 本行調べ。

アート・コート紙)による市況対策奏功から総じて堅調に推移したが、段ボール原紙は、青果、食品関係を除いては荷動き低調で、メーカーの減産継続にもかかわらず、弱含み商状を続けた。

砂糖……仕手筋の買い進みから前半微騰したが、需要はむしろ減退きみで、その後保合いとなった。

(卸売物価——10月は引き続きかなりの下落)

10月の卸売物価は、総平均で前月比-0.5%(前年同月比-1.4%)と、前月(-0.3%)に引き続きかなりの下落となった(月間としては43年8月以来の下げ幅)。

類別にみると、紙・パルプ・同製品が続騰の反面、鉄鋼、非鉄金属が大幅下落、繊維品、金属製品、機械器具等も続落し、食料品、木材・同製品も反落した。また産業別では、工業製品が前月比-0.4%と続落、非工業製品も農林水産物の値下がりや鉄・銅くず等の続落から、-1.1%と大幅低下を示した。

なお、11月にはいつからの動きをみると、上旬は繊維品、鉄鋼、金属製品等が実需不振から下落したほか、石油・石炭・同製品もフレート安を主因に続落したが、食料品、窯業製品が値上がりしたため、前旬比では保合いとなり、中旬は、繊維品、鉄鋼が小反発に転じたものの、食料品、木材・同製品、石油・石炭・同製品、非鉄金属等の低下から前旬比-0.1%となった。

(工業製品生産者物価——10月は続落)

工業製品生産者物価は、9月微落(前月比-0.1%)のあと、10月は前月比-0.4%とかなり低下を示した(前年同月比-1.4%)。これは、普通鋼鋼材、非鉄金属、合成繊維、天然および化学繊維等が大幅の値下がりを示したほか、石油・石炭製品、一般機械、金属製品も低下したため、反面、食料品、紙・パルプ・同製品は引き続き小幅ながら上昇した。

(消費者物価——10月は微騰)

10月の全国消費者物価(45年基準新指数による)は、総合で前月比+0.2%(前年同月比+6.4%)と

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		44年度 平均	45年度 平均	46年		
				8月	9月	10月
総平均	100.0	+2.4	+2.5	保合	-0.1	-0.4
食料品	12.6	+2.4	+4.3	+0.5	+0.3	+0.1
天然および化学繊維	3.0	-1.1	+6.7	-1.8	-3.2	-1.7
合成繊維	1.4	-3.1	-6.8	-0.7	-2.2	-2.8
織物	2.8	+1.3	+1.5	-1.8	-0.1	+1.6
繊維二次製品	3.2	+3.4	+7.4	+1.5	+0.7	-0.2
普通鋼鋼材	7.2	+10.2	+0.8	+0.3	-0.8	-3.1
特殊鋼鋼材その他	2.5	+3.0	+5.5	+0.1	-0.1	-0.3
非鉄金属	4.4	+16.5	-6.5	-1.2	-2.0	-3.1
金属製品	4.6	+2.2	+3.1	-0.2	保合	-0.2
一般機械	10.4	+1.6	+3.3	-0.1	-0.2	-0.2
輸送機械	8.3	-1.2	+0.2	-0.1	+0.1	+0.3
電気機械器具	9.1	+0.1	+1.1	-0.1	-0.1	-0.1
石油・石炭製品	3.7	-1.6	+4.6	+0.1	保合	-0.4
木材・同製品	5.0	+3.5	+6.3	+0.8	+1.1	-0.1
窯業製品	3.4	+1.4	+2.9	+0.1	保合	保合
化学製品	7.8	-1.0	-0.2	+0.1	+0.2	保合
紙・パルプ・同製品	4.5	+2.9	+6.0	保合	+0.1	+0.1
雑品目	6.1	+2.7	+3.2	+0.1	-0.1	+0.3

(注) 本行調べ。

わずかに上昇を示した。これは、食料が微落(前月比-0.2%)したものの、被服(前月比+1.0%)をはじめ、住居、光熱などその他の品目が上昇したため、季節商品を除く総合では、前月比+0.4%(前年同月比+6.1%)となった。なお、今回の指数改訂に伴い新たに「持家の帰属家賃を含む総合」も同時に発表されることとなったが、10月は前月比+0.2%(前年同月比+6.5%)となった。

一方、11月の東京消費者物価(速報、45年基準新指数による)は、総合で前月比-1.0%(前年同月比+5.4%)とかなりの下落となった。

これは、食料が野菜、くだもの、生鮮魚介の大幅値下がりから前月に引き続き大幅に下落(前月比-2.9%、10月-0.9%)したことが主因で、反面、被服、住居、光熱、雑費は上昇したため、季節商品を除く総合では、前月比+0.5%(前年同月比+6.0%)と続騰した。なお、「持家の帰属家賃を含む総合指数」は、前月比-0.7%となった。

下落幅が総合指数より小幅なのは、家賃がかなり上昇したことによる。

(輸出入物価—続落)

10月の輸出入物価は、前月比-0.5%(船舶を除くと-0.7%)と前月(-0.3%)に引き続きかなりの低下となった。これは、機械器具(船舶、トラック)が続騰したのを除き、金属・同製品(棒鋼、銅製品、金属洋食器)、繊維品(スフ、合織、綿織物)、化学製品(塩ビ・シート、塩ビ樹脂)等が、主として為替相場の円高から、いずれもかなりの下落を示したためである。

また、10月の輸入物価も、前月比-1.8%と前月大幅下落(-2.8%)のあと、引き続き大幅低下を示した。前月同様、主要品目が円相場の上昇による影響のほか、海外安もあって軒並み下落して

おり、なかでも食料品(とうもろこし、小麦、ココア豆)、雑品目(木材、パルプ、大豆、牛脂)、繊維品(原綿、原毛)、金属(銅鉱、銅地金、すず地金)等が大幅下落となった。この結果、交易条件指数は前月比1.3ポイントの改善となった(前月は2.7ポイントの改善)。

◇国際収支の黒字は小幅化

10月の国際収支は、総合で133百万ドルの黒字(9月は同261百万ドル)と引き続き黒字幅を縮小した。これは、貿易収支の黒字が727百万ドル(前月860百万ドル)と依然高水準ながら季節性もあってかなり減少したほか、長期資本収支が外人証券投資の流出超転換などから既往最高の220百万ドルの流出超(前月同109百万ドル)となったためである。なお、輸出前受け金の引落としが続いている

ことから短期資本収支等は当月も218百万ドル(前月310百万ドル)の流出超となった。

貿易収支を季節調整後で見ると、輸出は引き続き高水準を示したものの、輸入が米国港湾ストライキによる船積み遅延の反動などからかなり増加したため、678百万ドルの黒字と前月(737百万ドル)に比べればその幅を縮小した。

長期資本収支では、外国投資家が企業業績悪化による本邦株式市況軟化懸念等から買控え売急ぎの動きを示したため、対日証券投資が昨年12月以来10か月ぶりにかなりの流出超(50百万ドル、前月は38百万ドルの流入超)となり、これを映じて外国資本が流出超となった。

金融勘定では、輸出業者のユーザンスつき輸出の一覧払い輸出への切替えの影響や代

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上年率)			最近 月の 前年 同月 比	
		44年度 平均	45年度 平均	46年				
				9月	10月	11月		
消 費 者 物 価	総 合	100.0	+6.6	+6.9	+4.1	-0.2	-1.0	+5.4
	(季節商品を除く)	91.3	+5.6	+6.3	+1.3	+0.3	+0.5	+6.0
	食 料	40.3	+8.1	+7.4	+8.3	-0.9	-2.9	+4.8
	住 居	11.8	+3.0	+5.5	保 合	+0.5	+0.5	+3.6
	光 熱	3.7	+0.3	+1.1	保 合	+0.6	+0.1	+1.0
	被 服	12.4	+7.2	+11.0	+6.1	+0.8	+0.6	+9.0
	雑 費	31.8	+6.3	+5.7	+0.2	+0.1	+0.1	+5.8
	特 殊 分 類							
	農 水 畜 産 物	16.6	+10.4	+6.0	+21.4	-2.5		+6.1
	工 業 製 品	43.6	+4.4	+6.7	+1.8	+0.4		+5.3
	うち 大企業製品	19.8	—	—	+0.1	+0.4		+2.7
	中小企業製品	23.8	—	—	+3.2	+0.4		+7.5
	サ ー ビ ス	37.0	+6.1	+6.0	+0.4	+0.5		+7.4
全 国								
総 合	100.0	+6.4	+7.3	+2.7	+0.2		+6.4	
(季節商品を除く)	91.0	+5.2	+6.3	+1.0	+0.4		+6.1	
人 上 の 都 市 以 上								
総 合	100.0	+6.6	+7.4	+3.0	+0.1		+6.4	
(季節商品を除く)	91.0	+5.3	+6.4	+1.0	+0.4		+6.2	
輸 入 物 価								
輸 出		+4.0	+3.5	-0.3	-0.5		+0.6	
輸 入		+3.8	+2.4	-2.8	-1.8		-2.0	
交 易 条 件		+0.2	+1.1	+2.7	+1.3		+2.5	

- (注) 1. 消費者物価(昭和45年基準による新指数)は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 45年11月は速報。

国際収支

(単位・百万ドル)

	46年			46年		45年 10月
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月	
経常収支	450	1,292	2,113	680	571	254
貿易収支	1,071	1,778	2,514	860	727	392
輸出	4,932	5,765	6,239	2,070	2,084	1,746
輸入	3,861	3,987	3,725	1,210	1,357	1,354
貿易外収支	△ 541	△ 433	△ 362	△ 167	△ 138	△ 124
移転収支	△ 80	△ 53	△ 39	△ 13	△ 18	△ 14
長期資本収支	△ 194	177	△ 364	△ 109	220	△ 121
本邦資本	△ 649	△ 445	△ 557	△ 191	△ 186	△ 221
外国資本	455	622	193	82	34	100
基礎的収支	256 (741)	1,469 (1,548)	1,749 (1,444)	571 (448)	351 (302)	133 (85)
短期資本収支	131	660	550	△ 42	△ 11	84
誤差脱漏	222	159	1,761	△ 268	207	30
総合収支	609	2,288	4,060	261	133	247
金融勘定 外貨準備増 その他	609 * 1,059 △ 322	2,288 2,141 147	4,060 5,785 △ 1,725	261 870 △ 609	133 714 △ 581	28 219 222
外貨準備高	5,458	7,599	13,384	13,384	14,098	3,778
為銀対外 ポジション	866	1,162	△ 348	△ 348	△ 920	1,213

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。
 4. *にはSDR配分額128百万ドルを含む。

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出	輸出	輸入
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入	信用状	認証	承認
46年1~3月	1,823 (+ 9.1)	1,304 (+ 0.3)	519	1,867 (+ 9.7)	1,630 (- 0.5)	1,514 (+ 8.7)	1,941 (+ 8.2)	1,562 (+ 2.4)
4~6月	1,940 (+ 6.5)	1,321 (+ 1.3)	619	1,985 (+ 6.3)	1,652 (+ 1.4)	1,713 (+ 13.1)	2,127 (+ 9.6)	1,550 (- 0.8)
7~9月	1,995 (+ 2.8)	1,259 (- 4.7)	736	2,023 (+ 1.9)	1,588 (- 3.9)	1,674 (- 2.2)	2,138 (+ 0.5)	1,477 (- 4.7)
46年 7月	1,982 (- 0.4)	1,319 (- 2.6)	663	1,998 (- 2.6)	1,682 (+ 1.5)	1,753 (- 0.1)	2,157 (- 1.2)	1,503 (- 11.7)
8月	2,019 (+ 1.9)	1,210 (- 8.3)	809	2,044 (+ 2.3)	1,530 (- 9.1)	1,633 (- 6.8)	2,125 (- 1.5)	1,382 (- 8.1)
9月	1,984 (- 1.7)	1,247 (+ 3.1)	737	2,028 (- 0.8)	1,553 (+ 1.5)	1,637 (+ 0.2)	2,133 (+ 0.4)	1,547 (+ 12.0)
10月	2,013 (+ 1.5)	1,335 (+ 7.1)	678	2,066 (+ 1.9)	1,658 (+ 6.7)	1,607 (- 1.8)	2,105 (- 1.3)	1,671 (+ 8.0)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
 3. 季節調整はセンサス局法による。

金前受け済みの輸出がかなりあって輸出手形の買取りが減少していることから、為替銀行の買替輸出手形が大幅に減少したことを主因に、為替銀行の対外ポジションは月中572百万ドル悪化して月末には920百万ドルの負債超となり、一方、外貨準備高は714百万ドル増加して月末には14,098百万ドルとなった。

10月の輸出(通関ベース)は、季節調整後の前月比で+1.9%(前月-0.8%)と増加した。原計数の前年同月比では+19%(8月+31%、9月+22%)と増勢鈍化がみながら、これは船舶のフレによる面もあり(船舶を除くと+23%、前月は+16%)、実勢は依然高水準である。品目別にみると、船舶、はきもの等が前年水準をかなり下回ったものの、対米繊維輸出に関する政府間協定に基づく規制開始前のかけ込みにより繊維が増加したほか、自動車、オートバイ等も引き続き高水準を維持した。地域別では、西歐向け、共産圏向けが減少した反面、前月、前年水準を下回った米国向けが前記のような事情もあって当月は再び高水準となったほか、東南アジア向け、豪州、ニュージーランド、南ア向けも好調を続けた。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、10月-1.8%のあと、11月は自動車も既往最高となったほか、鉄鋼、電気機械も好調であったため、+5.5%と大幅な増加となった(原計数の前年同月比+26.0%)。10月の輸入(通関ベース)は、季節調整済み前月比では+6.7%と急増したが、これは米国西海岸の港湾ストライキ中止に伴う小麦、大豆等の入着増や航空機(ジャンボなどジェット旅客機3機)の輸入集中などによるところが大きく、基調的には依然停滞を続けており、原計数の前年同月

比では+0.2%にとどまった。品目別にみると、食料品、大豆、化学製品等前月まで低水準であったものが増加したが、繊維原料、鉄鉱石、鉄鉱くず、木材、鉄鋼、非鉄金属等は前年水準を大きく下回った。

10月の輸入承認(季節調整済み、前月比)は、前月急増(+12.0%)のあと+8.0%とさらに増加した。もっとも、原計数の前年同月比では+3%と低水準にとどまっている。品目別にみると、羊

通関輸出の内訳 (単位・百万ドル)

	46年			46年	
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月
食料品	146 (+17)	152 (-5)	195 (-2)	60 (-12)	68 (+23)
魚介類	72 (+22)	73 (+13)	102 (+8)	31 (-8)	33 (-2)
繊維製品	558 (+13)	714 (+23)	720 (+16)	234 (+16)	259 (+17)
綿織物	38 (-5)	49 (+7)	51 (+7)	17 (+12)	19 (+11)
合繊織物	150 (+23)	191 (+30)	190 (+15)	67 (+20)	73 (+21)
化学製品	342 (+19)	372 (+26)	385 (+26)	127 (+13)	117 (+2)
非金属鉱物製品	82 (-4)	96 (+2)	102 (+7)	32 (-2)	35 (+16)
金属製品	963 (+18)	1,159 (+23)	1,228 (+22)	404 (+13)	361 (+14)
鉄鋼	745 (+18)	905 (+31)	960 (+28)	323 (+20)	274 (+20)
機械機器	2,504 (+30)	2,788 (+32)	3,104 (+36)	1,071 (+36)	1,097 (+26)
(船舶を除く)	2,014 (+31)	2,401 (+34)	2,628 (+32)	869 (+24)	952 (+35)
テレビ	98 (+39)	126 (+44)	155 (+32)	50 (+24)	51 (+22)
ラジオ	153 (+13)	182 (+8)	223 (+13)	74 (+5)	82 (+17)
自動車	438 (+66)	557 (+83)	602 (+67)	191 (+52)	245 (+93)
船舶	489 (+25)	386 (+22)	476 (+71)	202 (+135)	145 (-12)
光学機器	117 (+12)	141 (+14)	150 (+12)	49 (+9)	54 (+18)
その他	464 (+22)	585 (+22)	619 (+16)	181 (+3)	180 (+11)
合計	5,060 (+23)	5,866 (+26)	6,355 (+26)	2,109 (+22)	2,119 (+19)
(船舶を除く)	4,570 (+23)	5,479 (+26)	5,879 (+23)	1,907 (+16)	1,974 (+23)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

毛、綿花、鉄鉱石、非鉄金属鉱が増加したものの、鉄鋼くず、木材、石炭、機械、鉄鋼は前年水準を下回っている。

輸入素原材料在庫(季節調整済み、前月比)は、10月-2.0%とかなり減少したため、同消費も-1.5%と減少したものの在庫率は112.6(前月113.1、40年=100)と若干低下したが、その水準は依然として高い。

通関輸入の内訳 (単位・百万ドル)

	46年			46年	
	1~3月	4~6月	7~9月	9月	10月
食料品	705 (+22)	689 (+14)	664 (-1)	237 (-2)	255 (+8)
小麦	90 (+10)	80 (+21)	61 (-34)	24 (-25)	27 (+2)
とうもろこし	65 (-12)	58 (-25)	59 (-7)	18 (-17)	23 (-12)
砂糖	93 (+60)	89 (+42)	65 (-14)	22 (-17)	16 (-43)
原燃料	2,775 (+15)	2,876 (+9)	2,668 (-1)	866 (-6)	932 (-6)
羊毛	66 (-32)	74 (-21)	68 (-25)	18 (-30)	19 (-24)
綿花	134 (+21)	145 (+11)	114 (+3)	31 (-17)	41 (-1)
鉄鉱石	317 (+19)	354 (+16)	327 (+5)	109 (-7)	109 (-4)
鉄鋼くず	43 (-34)	31 (-69)	26 (-76)	8 (-77)	8 (-63)
非鉄金属鉱	246 (-4)	266 (-3)	270 (0)	97 (+13)	84 (-10)
大豆	109 (+24)	93 (+7)	97 (+11)	35 (+4)	47 (+35)
木材	387 (+15)	382 (-1)	306 (-27)	90 (-34)	116 (-25)
石炭	272 (+45)	264 (+6)	246 (-11)	80 (-12)	94 (-17)
原油	679 (+25)	756 (+42)	781 (+44)	260 (+37)	252 (+22)
化学製品	247 (+3)	247 (-3)	228 (-9)	75 (-11)	101 (+10)
機械機器	644 (+15)	660 (+12)	516 (-7)	147 (-19)	209 (+6)
鉄鋼	40 (-51)	24 (-68)	23 (-70)	6 (-74)	8 (-52)
非鉄金属	163 (-38)	189 (-20)	188 (-21)	60 (-16)	54 (-25)
その他	293 (+13)	316 (+12)	377 (+12)	122 (+12)	138 (+24)
合計	4,867 (+11)	5,001 (+7)	4,664 (-3)	1,512 (-7)	1,696 (-1)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。